

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		スーパー（店長）	販売量の動き	・競合店が閉店したため、売上は伸びている。ただし、それ以外の状況はあまり変化していない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・2、3月に買い控えていた客が我慢の限界となり、多くの客が来店し、売上が前年を上回った。ガソリンが安くなったためか、マイカー利用の客が非常に多かった。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・新入社員の歓迎会を例年行っている客の姿が見られず、厳しい前半であったが、その後常連客の接待予約がぼつぼつ入り、売上は前年同月比1割増となった。客からは「物が売れない」「売上が落ちてきている」など、相変わらず厳しい会話が多く聞かれる。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・各部門とも売上は前月比、前年比共に増加している。
	変わらない	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数がかかなり落ち込んでいる。例年好評の物産展でも来場者数が減少しており、シャワー効果もなく、衣料、非衣料共に苦戦している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・食品の値上がりや税金の増額など、客の財布のひもは相変わらず固い。客は遠くの店へは行かず、少しでも安い商品を求めて、近くの競合店で買い回りをしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品、日用雑貨など生活必需品は微増傾向にあるが、ファッション、住生活商品では不振が大きい。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は前年比6%増、客単価は同3%低下、売上は同3%増となっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は増加している。前半は非常に悪かったが、後半は好天にも恵まれ、月全体の売上は前年をクリアした。
乗用車販売店（経理担当）		販売量の動き	・新型車効果で受注残があるものの、4月の受注ペースは大変悪い。ガソリン暫定税率の問題で自動車業界は新車登録や車検等に影響が出ている。	
その他専門店【医薬品】（営業担当）		販売量の動き	・来客数、売上共に横ばいで推移している。	
高級レストラン（スタッフ）		販売量の動き	・歓迎会、入学祝い、花見などは好天に恵まれ、販売量は例年並みに推移した。サービス料金や部屋代を廃止し、明朗会計へ移行した店舗は、県外の個人客の利用が増加している。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・ケーブルテレビの提供サービスであるテレビ多チャンネルコースは、区域外再送信問題もあり、伸び悩んでいる。一方、インターネットサービスは価格競争力を有していることもあり、比較的好調に推移している。	
やや悪く なっている	一般小売店【鮮魚】（従業員）	お客様の様子	・前年の4月は能登半島地震の影響で散々な状況であったため、前々年との比較で見ても、まだそのレベルまで達しておらず、景況感は悪い。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・春闘での賃上げ率が低く、給与所得が不安定である一方で、値上がりした商品が多すぎる。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客の態度は、完全な生活防衛パターンとなっている。例年、大型連休の前に旅行関連商品が動くが、今年は「旅行に行かない」「行く場合も今までのかばんを利用する、持っている洋服を着る」など、客は極めて厳しい態度で臨んでいる。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・年明けから、客の価格に対する見方が次第に厳しくなり、かなりの低価格を打ち出さないと、集客につながらず、売上も確保できない。	
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・衣料品、日用品等では客単価が減少しており、来客数が前年に比べ増加しても売上は増えない。必要なものしか購入しない客が増えた。	

	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・売上は前年の92.6%であった。給料日以降の1万円札の回収も大幅に減り、小銭での支払いが増えている。従来はたばこのついでにもう一品という買物もかなり見られたが、最近のはたばこだけで終わるケースが多い。主要客層である成人男性の財布の中身は厳しい。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・消費に対するマイナス要因ばかりが増えてきており、買い控えの客も増加傾向にある。	
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月は新車、中古車共に販売の低迷が目立つ。大きな需要月である3月の反動もあるが、受注水準は前年同月を下回っている。	
	自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・ガソリン暫定税率問題などで先行き不安が続き、客の購買意欲が低下している。	
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年の売上は能登半島地震の影響で落ち込んでいた前年実績を上回った。しかし、前々年と比較すれば、決して回復傾向にあるとは言えず、90%後半で推移している。先月に引き続き、客単価は若干低下している。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・若干上向き傾向の宿泊部門に対し、利用客が減少したレストラン部門のマイナスが大きかった。また前年の大型宴会の代替がない宴会部門の低迷が全体を押し下げている。	
	タクシー運転手	競争相手の様子	・花見や歓送迎会などがあり、週末はますますであったが、タクシー運賃改定により会社別の運賃格差がはっきりと出た。客の節約志向から、安いタクシーを利用する傾向が一段と強まり、競争が激化した。	
	その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・客は余計なお金は使わないため、マッサージやお土産など、館内での趣向品の販売量が3か月前と比較して非常に悪い。常連客はそれほど減っていないが、一見の客の利用減が顕著である。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・ローコスト住宅の競争も以前に比べ激しくなっている。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前及び前年との比較では、共に受注額が大きく下回った。土地がらみの客の動きが出てきたが、力強さはない。	
	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・受注の減少傾向に加え、施工進捗状況面で本来は最も多忙な時期にもかかわらず、当社専属大工の手空きに回復の兆しが出てこない。	
悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・街を歩いている人や商店街に来る人の数がめっきり減少している。高額品も売れなくなっている。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人服の売上は前年の9割にとどまった。5月からのガソリン値上げの影響もあり、婦人服は持っているものをできるだけ着るといった姿勢から、単品買いが目立つ。	
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数はわずかながら減少している。客単価はいろんな商品が値上がりしているにもかかわらず、同じく微減状態である。	
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・ガソリン暫定税率関連の影響は新車購入や車検時の費用などにも及び、自動車業界と消費者を共に直撃している。買い控えや車検の引き延ばしなども発生している。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新機種発売に伴う買い控えに加え、需要自体が縮小傾向である。必要な人は3月末までに購入している。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・団体、募集ツアー、グループ、個人共に来客数が急激に悪くなり、前年に比べ1割以上の減少となっている。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	-	-	
	変わらない	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・半年ほど前から住宅着工数の減少により販売量が減少しているが、その状態が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・眼鏡の受注数量は前年に比べほぼ同程度で推移しているが、商品的には短命化、小ロット化、高難度化の傾向にあり、商品の収益性はますます厳しくなっている。
	司法書士	取引先の様子	・建物新築や不動産取引の案件が非常に少ない。	

やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・昨年に食品価格の改訂や規格変更を実施して以来、食品販売量の減少が顕在化してきている。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年に比べ大幅に減少している。国内市場の消費低迷に加え、円高・ドル安、原料高、さらにけん引役であった輸出市場（特に米国）の市況悪化で受注環境が様変わりしている。
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内向けの販売は横ばいであるが、輸出向けは苦戦している。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・各企業へ電話設備の提案をしても、原材料等の値上がりで資金的に難しいという態度が目立ってきた。特に大型のビジネスホンの更改で顕著である。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・株式市場の低迷、原材料の高騰などから、取引先に停滞感が見られる。
	金融業（融資担当） 税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き 受注価格や販売価格の動き	・食品や原油の値上がり分を販売価格に転嫁できず、困っている会社が多く存在する。 ・最近の物価高は、石油関係を中心に、すべての食品に及んでいる。物の価格が安定していた時期が長かっただけに、現在は販売商品にどのような値付けをすればよいか、多くの経営者は戸惑いの中にいる。
悪くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・天候不順と食品の値上げラッシュで、消費者心理が冷えている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・道路特定財源関連法案が年度内に成立しなかった影響で、3月末に落札した道路維持作業がまだ契約されていない。例年、年度始めの4、5月は手持ち工事が少ない時期であるが、今年は元請工事はもとより下請工事もほとんど無く、4月の工事完成高としては過去最低の年になる。
	建設業（総務担当）	それ以外	・建設資材の価格上昇が続くとともに、鋼材の納期が長期化しており、採算と工期に悪影響が出ている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
やや悪くなっている	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・新年度に入り、新規需要が減少気味である。新卒採用の影響も考えられるが、求人を探している企業が目立つ。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き ・優秀な派遣社員を契約更新時に直接雇用したいとする希望が新年度に入ってから多くなっている。また、40～50歳代の女性登録者が目に付く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き ・求人広告の出稿量は前年同月比4割減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き ・求人件数が前年に比べ減少している。なかでも社員の正規雇用の募集件数が低調である。企業としては人員や雇用形態を見直し、総人件費削減への動きに拍車を掛けている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き ・事業主都合による解雇者が増加傾向にある。	
悪くなっている	-	-	-